



2025年12月24日

各 位

会 社 名 C R G ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 小田 康浩
(コード : 7041 東証グロース)
問合せ先 経営企画部部長 福原 将之
(TEL. 03-6302-0834)

(訂正・数値データ訂正) 「2025年9月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」の一部訂正について

当社は、2025年11月14日に発表いたしました「2025年9月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」について、一部記載に訂正がありましたので、下記のとおりお知らせします。また、数値データ(XBRLデータ)にも訂正がありますので、訂正後の数値データを送信いたします。

記

1. 訂正の理由

「2025年9月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」の提出後に、前連結会計年度（2024年9月期）の記載について集計作業における認識齟齬があることが判明いたしました。具体的には、連結キャッシュ・フローの状況、当期のキャッシュ・フローの概況、連結キャッシュ・フロー計算書および連結財務諸表に関する注記事項(連結キャッシュ・フロー計算書関係)における前連結会計年度の数値に誤りがありましたので、これを訂正するものです。

2. 訂正の内容

訂正箇所には下線を付して表示しております。

サマリー情報

【訂正前】

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
2025年9月期	百万円 △13	百万円 1,924	百万円 △861	百万円 3,511
2024年9月期	△1,736	△1,519	3,093	2,462

【訂正後】

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
2025年9月期	百万円 △13	百万円 1,924	百万円 △861	百万円 3,511
2024年9月期	△1,763	△1,492	3,093	2,462

(添付資料<3ページ>)

1. 経営成績等の概況

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

【訂正前】

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は13百万円（前年同期は1,736百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が238百万円、減価償却費の計上が132百万円、のれん償却額の計上が92百万円あったものの、関係会社株式売却益の計上が197百万円、営業貸付金の増加額が93百万円、未払金の増加額が113百万円、法人税等の支払額が355百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は1,924百万円（前年同期は1,519百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が243百万円、投資有価証券の取得による支出が66百万円あったものの、貸付金の回収による収入が1,688百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入が559百万円あったこと等によるものであります。

【訂正後】

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は13百万円（前年同期は1,763百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が238百万円、減価償却費の計上が132百万円、のれん償却額の計上が92百万円あったものの、関係会社株式売却益の計上が197百万円、営業貸付金の増加額が93百万円、未払金の増加額が113百万円、法人税等の支払額が355百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は1,924百万円（前年同期は1,492百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が243百万円、投資有価証券の取得による支出が66百万円あったものの、貸付金の回収による収入が1,688百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入が559百万円あったこと等によるものであります。

（添付資料<10ページ>）

3. 連結財務諸表及び主な注記

（4）連結キャッシュ・フロー計算書

【訂正前】

（単位：千円）

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
その他	△327,508	265,546
小計	△1,587,621	487,744
利息及び配当金の受取額	636	2,642
利息の支払額	△20,264	△68,781
助成金の受取額	3,293	2,792
保険金の受取額	1,442	—
役員退職慰労金の支払額	—	△84,000
法人税等の支払額	△160,255	△355,133
法人税等の還付額	26,642	1,234
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,736,126	△13,501

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月 1日 至 2024年 9月 30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月 1日 至 2025年 9月 30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
事業譲受による支出	△26,918	△20,767
出資金の払込による支出	—	△4,020
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△710,823	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	559,484
敷金の差入による支出	△21,059	△10,869
敷金の回収による収入	45,055	38,331
その他	13,333	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,519,846	1,924,713

【訂正後】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月 1日 至 2024年 9月 30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月 1日 至 2025年 9月 30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
その他	△354,426	265,546
小計	△1,614,539	487,744
利息及び配当金の受取額	636	2,642
利息の支払額	△20,264	△68,781
助成金の受取額	3,293	2,792
保険金の受取額	1,442	—
役員退職慰労金の支払額	—	△84,000
法人税等の支払額	△160,255	△355,133
法人税等の還付額	26,642	1,234
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,763,045	△13,501

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月 1日 至 2024年 9月 30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月 1日 至 2025年 9月 30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
事業譲受による支出	—	△20,767
出資金の払込による支出	—	△4,020
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△710,823	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	559,484
敷金の差入による支出	△21,059	△10,869
敷金の回収による収入	45,055	38,331
その他	13,333	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,492,928	1,924,713

(添付資料<13ページ>)

(表示方法の変更)

【訂正前】

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「棚卸資産の増減額（△は増加）」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記する

こととしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の組替を行っております。この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた△340,506千円は、「棚卸資産の増減額（△は増加）」△12,997千円と「その他」△327,508千円として組み替えております。

また、前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「シンジケートローン手数料」及び「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「シンジケートローン手数料による支出」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」及び「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替を行っております。この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「シンジケートローン手数料」に表示していた3,011千円は、「その他」△327,508千円に、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「シンジケートローン手数料による支出」に表示していた△2,200千円は、「その他」△6,201千円として組み替えております。

【訂正後】

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「棚卸資産の増減額（△は増加）」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の組替を行っております。この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた△370,435千円は、「棚卸資産の増減額（△は増加）」△12,997千円と「その他」△354,426千円として組み替えております。

また、前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「シンジケートローン手数料」及び「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「シンジケートローン手数料による支出」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」及び「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替を行っております。この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「シンジケートローン手数料」に表示していた3,011千円は、「その他」△354,426千円に、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「シンジケートローン手数料による支出」に表示していた△2,200千円は、「その他」△6,201千円として組み替えております。

以 上